

令和5年度 地域づくり海外調査研究事業調査報告書

「サイクリングのまち 加須市」を定着させるために

調査地：スイス

調査日：令和5年9月10日～9月17日

一般財団法人地域活性化センター

地域創生・情報広報グループ 卯木 孝明

目次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	加須市の現状・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) かぞ版スーパーシティ計画	
	(2) KAZO CYCLE EXPO / サイクリスト おおやようこ氏 取材	
3	調査地の選定・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4	調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(1) チューリッヒ	
	チューリッヒ観光局観光案内所 視察 / チューリッヒ観光局日本代表 取材	
	(2) ジュネーブ	
	ジュネーブ観光局 視察 / ガイド付きサイクリングツアー 視察	
5	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	(1) 「サイクリングのまち加須市」を定着させる体制づくり	
	(2) 「ガイド付きサイクリングツアー」の開催	
	一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン 取材	
6	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	一般社団法人 日本エコツーリズム協会 取材	

1 はじめに

埼玉県加須市では、将来都市像として「絆でつくる 緑あふれる 安心安全・元気な田園都市 加須」を掲げ、それを実現するため、かぞ版スーパーシティ計画に基づき、魅力ある新しい都市の創造に取り組んでいる。そして、その計画の中では地域資源を活用した観光を推進することが重要課題として求められている。

そこで、今回の調査では、観光先進地スイス連邦（以下「スイス」という。）における地域資源を活用した観光について視察することで、加須市の目指す「緑豊かな自然と調和し、地域資源を最大限活用した観光」を進めていく方策を提案する。

2 加須市の現状

(1) かぞ版スーパーシティ計画

加須市では、これからの10年、20年先を見据えたまちづくりの指針である「第2次加須市総合振興計画」において、加須市の将来都市像「絆でつくる 緑あふれる安心安全・元気な田園都市 加須」を掲げている。令和4年3月には、加須駅南口から徒歩約1分の場所に、近隣市町村で最も医療体制の充実した大規模病院である埼玉県済生会加須病院が落成した。これを起爆剤とする「病院を核とした新たなまちづくり」は、加須市の将来都市像の実現に向けて、最優先で取り組むべき新たな課題となっている。大規模病院の立地を契機に、来院者や病院関係者をはじめとする新たな人の流れが生まれることになる。

それにより「病院を核とした新たなまちづくり」に向けて、第2次加須市総合振興計画との整合を図り、まちづくりの基本的な方向性を示す「病院を核とした加須駅周辺の新たなまちづくりコンセプト」を令和4年6月に策定した。これをベースに、加須市の顔となるような魅力ある新しいまち「かぞ版スーパーシティ」の実現を目指し、まちづくりの方針やその実現に向けた方策を示す「病院を核とした加須駅周辺の新たなまちづくり構想」の策定を目指している。

加須市が設定した事業の根幹となる要素の中には「健康を支える環境整備・自然と調和した街並み・駅周辺既存中心市街地の活用」などがある。これらを組み込みながら、加須市ならではの新たな魅力を具備したまちづくりを行うことが求められている。

その手段として、地域資源を最大限活用した観光を進めることが適していると考ええる。加須市では観光計画の推進に当たっては、緑豊かな自然と調和し、地域資源を最大限活用することを目指している。特に中心的に取り組んでいることは「KAZOLING」と呼ばれるサイクリングを活用した観光で、まちなかや自然豊かな渡良瀬遊水地で事業展開している。サイクリングを通じて人々の健康を支える環境整備を行い、豊かな自然と既存の街並みや加須駅周辺中心市街地を活用することによって、サイクリングを通して、加須市の魅力を多くの人に発信することが可能となる。

また、すでに加須駅北口には、観光案内所やレンタルサイクルステーションの機能を有する加須市商工会の活動拠点がある。駅の南口にも、現在は使用されていない旧加須市医

療診断センターがあるため、その施設を活用し、レンタルサイクルステーションを設けることで、遊休施設を活用しながら「サイクリングのまち加須市」として、より一層観光事業を進めていくことができる。人生100年時代の到来に伴う、健康志向の高まりも後押しし、地域資源を活用したサイクリングによる地域活性化は、加須市の今後の発展に有効な手段であると考ええる。

(2) KAZOLING CYCLE EXPO

加須市は、令和5年10月1日に渡良瀬遊水地芝生サッカーグラウンドにて、渡良瀬遊水地まつり in KAZO 実行委員会主催で「KAZOLING CYCLE EXPO @渡良瀬遊水地」を開催した。

KAZOLING CYCLE EXPOでは、レンタルサイクルをはじめ、平成20年に開催された北京オリンピックで自転車競技男子ポイントレースに出場し、日本人選手として初めて8位入賞を果たした飯島誠氏やサイクリスト Youtuber・ヨガインストラクターとして、自転車関連のイベントで活躍しているおおやようこ氏などのゲストトークショーが行われた。また、アメリカ発祥で、ペダルとブレーキがなく子どもが脚で直接地面を蹴って動かす自転車であるストライダーをつかったレース体験、自転車芸人お笑いライブなどが実施された。

開催場所の渡良瀬遊水地は、関東平野のほぼ中央に位置し、栃木県の栃木市・小山市・野木町、群馬県の板倉町、茨城県の古河市、埼玉県の加須市からなる4県の4市2町にまたがる。東京ドーム約700個分に当たる総面積約3,300ヘクタールの広大な空間に、日本最大級のヨシ原を有している。利根川水系の治水・利水に大きな役割を果たすとともに、多様な動植物の宝庫でもあり、自然・歴史・文化に触れ合うことのできる貴重な体験活動の場となっている。散策やレクリエーションのほか、谷中湖や管理用道路を活用したスポーツイベントが開催され、魅力的な水と緑のオープンスペースとなっている。

また、KAZOLING CYCLE EXPOの開催に合わせて、令和5年10月1日から11月10日までの期間で「かぞ観光サイクリングラリー」も開催した。11箇所のラリーポイントのうち、4ヶ所以上巡った参加者の中から、抽選で加須市の特産品を贈呈する企画である。贈呈される特産品には、酒蔵力士の日本酒や名物の五家宝、加須市に工場のある湖池屋のポテトチップス、こいのぼり手ぬぐいなどがある。かぞ観光サイクリングラリーのラリーポイントを数ヶ所紹介する。

①下總皖一像

道の駅 童謡のふる里おおとねにあり、誰もが知る「たなばたさま」の曲をつくった、加須市の偉人 下總皖一像である。

②道の駅 かぞわたらせ

関東の道の駅で初となる恋人の聖地サテライトに選定され、ハートのオブジェがある。谷中湖を一望することもでき、渡良瀬遊水地サイクリングの拠点としても人気のスポットである。

③野木町煉瓦窯

国の重要文化財に指定されている。日本に現存するホフマン式輪窯の中で、唯一円形で完全な形を保っている貴重な産業遺産である。

④中の島

渡良瀬遊水地の中心にあり、天気良ければ埼玉のウユニ湖と称される絶景が見られる。

ラリーポイントを加須市内全域に配置しているため、市内巡回の効果を生んでいる。また、栃木市や野木町と連携しながら、加須市外にもラリーポイントを設置し、周辺地域の魅力を絡めたラリーポイントを設定している。

かぞ観光サイクリングラリーに参加するための自転車は、かぞ観光レンタルサイクルで借りることができる。利用時間は午前9時から午後5時までで、市内の各地域を網羅するようにレンタルサイクルステーションが設置されており、レンタルサイクルステーション間で自転車の乗り捨ても可能となっている。市内のレンタルサイクルステーションは、加須市商工会館、花崎コミュニティセンター、キャッスルきさい、北川辺・学習センターのみ、道の駅童謡のふる里おおとねにある。



KAZOLING CYCLE EXPO / かぞ観光サイクリングラリー チラシ

また、KAZOLING CYCLE EXPO のトークショーでゲスト出演したおおやようこ氏に取材を行った。

おおや氏は、加須市の隣町である埼玉県行田市出身で、加須市にある埼玉県立不動岡高等学校を卒業した加須市にゆかりのあるサイクリストである。サイクリングで地域活性化を目指す全国の地域をめぐり、自らの体験を通して、ライター活動やYouTubeでの動画配信で地域の魅力発信を行っている。今回開催した KAZOLING CYCLE EXPO の他にも、加須市のサイクリング関連のイベントに複数回ゲスト出演している。また、おおや氏はサイクリングとヨガを組み合わせたサイクリストヨガという新しい取組を行っている。おおや氏によると、サイクリングを行う年齢層は中高年の男性をはじめ、70歳代の参加者も多いという。サイクリングは全身の力を出し続けるため、全体的に体を緩め、怪我を防ぐことが

重要である。そこで、サイクリングの前にヨガを取り入れ、参加者の怪我のリスクを軽減し、安心してサイクリングを楽しむことができる環境づくりにも力を入れている。

まず、おおや氏に加須市のサイクリングツアー参加者からの感想と加須市の課題について聞いた。

おおや氏がガイドを行った加須市のサイクリングツアー参加者から「騎西城跡、玉敷神社などの加須市の歴史的な名所を巡るサイクリングツアーはとても楽しかった。もっと詳しく加須市の歴史について知りたくなった」との声が多数あり、高評価であったという。まちの歴史とサイクリングを掛け合わせることで、自転車で走る楽しさと新しいことを発見する楽しさの両方を味わえることが高評価の理由の一つであると考えます。

また、加須市の課題については、一つ目に行政と民間の熱量の差であると話す。行政側の、サイクリングで加須市を活性化させたいという思いは伝わるが、地元事業者や地域の人との連携が不十分であると感じたという。おおや氏が訪れたサイクリングで地域活性化に取り組む地方公共団体では、地域の人々の理解と地元のサイクリストの積極的な参加、地元事業者の協力が十分にあるという。また、地域の人や地元事業者に協力を依頼する場合、必ず両者にメリットがある仕組みをつくることが重要で、第一に地域の人たちに満足してもらうことを忘れてはいけないと話した。地元事業者にとってのメリットは、多くの人に店を知ってもらい、来店してもらうことだと考える。おおや氏が YouTube の撮影を行う際、小規模であっても、店の宣伝になるため、地元事業者は喜んで撮影協力をしてくれるという。他にも、市のサイクリングマップに店を掲載し、サイクリングツアーで店の紹介をすることを前提に、地元事業者へ協力依頼することで、お互いにメリットのある仕組みをつくることができる。

また、地域の人々の理解と協力を得たサイクリング事業を行うには、地域の人向けにサイクリングツアーを開催し、地域とサイクリングの魅力を改めて気付いてもらい、最終的には、地域の人々が主体的に携わりたいと思うような雰囲気を出していくことが必要であると考えます。おおや氏は、地域の人々の参加者を増やすには、小さいイベントを積み重ねていくことが必要だと話した。前述した KAZOLING CYCLE EXPO のような大きなイベントも集客効果はあるが、一時的な盛り上がりで終わってしまう傾向がある。小さいイベントを積み重ねていくことで、徐々に地域の人々にサイクリングが根付いていくだろう。ターゲットは子どもから高齢者まで幅広く構え、加須市の歴史や文化、特産品に触れることができるガイドツアーは効果的だと考える。

おおや氏は二つ目の課題として、レンタルサイクルに電動自転車がないことを指摘した。サイクリングで地域活性化を目指す全国の地方公共団体を訪れているが、レンタルサイクルの選択肢に電動自転車がないところはなかったと話す。電動自転車は年齢を問わず気軽にサイクリングを楽しむことができるため、レンタルサイクルの利用者が増え、まちにサイクリングが根付きやすいという。費用はかかるがそれ以上の効果があると話した。

次に、おおや氏にサイクリスト目線で、地元事業所に協力して欲しいこと聞いた。

それは、空気入れや自転車の修理用具を店に置いてもらうこと、水筒に水を補給してもらうこと、トイレの貸し出し協力、バイクラックを設置してもらうことだという。このような地元事業者が多いまちでは、サイクリストが安心してサイクリングを楽しむことがで

きるため、サイクリングを目当てに、観光客も多く集まるという。おおや氏の働きかけで、加須市のオサルナというパンとスイーツの店が、バイクラックを設置してくれた実績もある。加須市として、地元事業者との連携をさらに深めていくべきである。

最後に、おおや氏にサイクリングツアーのルートを計画する際の注意点を聞いた。

おおや氏は、土地勘がない場所では、ナビゲーションがある場合でも道に迷いやすいため、誰にでも分かりやすいサイクリングルートをつくる必要があり、ルートを分かりやすくする方法として、路面上に矢羽根などのガイドを示すことも有効であると話した。また、サイクリングルート上にトイレを設定することも重要で、公園やコンビニをサイクリングルートに組み込みながら、市内に円を描くように目的地を設定することで、サイクリングツアー参加者に、安心して走りやすいまちという印象を与えることができると話した。

加須市の現状、加須市のサイクリング事業に携わるおおや氏への取材を踏まえながら、サイクリングによる地域活性化を実現している先進地視察等を行い「サイクリングのまち加須市」としてより一層発展していくための取組が必要である。



KAZOLING CYCLE EXPO の様子

3 調査地の選定

スイスは、雄大なアルプス山脈、水源から流れるエメラルド色の川や湖、中世にタイムスリップしたかのような街並みがあふれていて、これらの地域資源を最大限活用した観光に力を入れている。調査地として、チューリッヒとジュネーブに注目した。

チューリッヒは、市内周遊型サイクリングツアーに力を入れている。電動自転車を使ったガイド付き市内観光や歴史的建造物にスポットを当てたガイドツアーなどがあり、まちの歴史や文化、自然、食を楽しむことができる。

ジュネーブは、レマン湖の豊かな自然とまちのシンボルである大噴水を有している。まちの歴史を学びながら、レマン湖を満喫できるサイクリングツアーを展開している。

今回は、この2地域の事例を調査することとした。

4 調査概要

(1) チューリッヒ

チューリッヒはスイス最大の都市であり、チューリッヒ国際空港やチューリッヒ中央駅などを有しているため、スイスで最大規模の交通量を誇る。

チューリッヒでは、チューリッヒ観光局が運営しているチューリッヒ駅内の観光案内所を視察した。スイス各地の観光パンフレットが豊富にそろい、情報入手にも最適な場所であった。また、窓口での個別対応は、入口で番号札を取り、その番号が表示されたカウンターに行くと、観光案内所の職員が英語で用件を聞いてくれるシステムであった。サイクリングツアーをはじめ、さまざまな観光コンテンツの申し込みができる。サイクリングツアーには、地元のガイドがチューリッヒの歴史・文化を案内してくれるものや、チューリッヒの名物、流行のレストラン・バーを案内するフードツアー、スイスメイドの商品を扱う店を案内するツアーなどがあった。多様なテーマを設けることで、幅広い層の集客につながり、地元事業者と連携することで、観光客に地域でお金を使ってもらう仕組みが整っていた。

また、サイクリングツアー参加者には電動自転車を用意していた。観光案内所職員は、電動自転車があれば、体力に自信のない人や普段自転車に乗らない人でも気軽にサイクリングツアーに参加することができるため、参加者層を広げることができ、電動自転車を用意することは有効な手段であると話した。

さらに、チューリッヒ観光局エリアマネージャーの Uliana Shtoyko 氏によれば、市内観光、美術館訪問、文化的遺跡見学などすべてのガイド付きサイクリングツアーは、チューリッヒ観光局がプログラムを計画している。チューリッヒ観光局は民間団体であるため、地方公共団体の介入はなく、自由にプログラムを計画することができているという。

そして、ツアーガイドの Johanna Huerlimann 氏は、電動自転車はチューリッヒカジノから贈与されたもので、民間の自転車会社が保守・点検・保管を受け持ち、サイクリングツアーのマニュアル作成やルート設定、宣伝などを、チューリッヒ観光局が担っていると話した。

一つの団体がすべての業務を担うのではなく、それぞれの分野を複数の団体が連携し、サイクリングツアーを運営するという体制が整っていた。Johanna Huerlimann 氏によれば、複数の団体がサイクリングツアーに携わっているが、携わっている職員一人一人には「観光客にチューリッヒの歴史や文化をたくさん知ってもらいたい」という思いが根本にある。そして、目指していく方向性を共有できているため、一体感を保ちながら運営することができているという。

帰国後に、チューリッヒ観光局日本代表の岡部昇氏に取材し、チューリッヒ観光局全体の概要について聞くことができた。

チューリッヒ観光局は、約 70 人の職員で構成され、多くの観光客にチューリッヒに来てもらうため、全世界に向けてマーケティング活動を行っている。チューリッヒ観光局の財源は、観光客が宿泊するホテルへ支払う 3%の宿泊税である。チューリッヒのホテルは、基本的にホテル協会に加盟していて、宿泊者から宿泊税を徴収し、チューリッヒ観光局へ納めている。その対価として、チューリッヒの宿泊マップにホテルの情報を掲載したり、観光客や旅行会社に、おすすめの宿泊施設として紹介したりしている。

また、スイスは、国民投票で政策を決定していく直接民主主義を採用している。そのため、チューリッヒ観光局が事業を行う際、地域の人々の理解とメリットを重視しているとい

う。観光客のためだけでなく、地域の人にとってもメリットになる事業を考えているため、地域の人の理解を得やすく、円滑な協力体制を整えることができている。



チューリッヒ観光案内所の様子

(2) ジュネーブ

ジュネーブは、チューリッヒに次ぐスイス第二の都市である。金融業が発達しており、プライベートバンクの中心地で、国際連合の専門機関などがあり、条約の作成や国際会議が行われている。

ジュネーブでは、ジュネーブ観光局を視察するとともに、実際にガイド付きサイクリングツアーに参加した。

ジュネーブ観光局 CEO の Adrien GENIER 氏によると、ジュネーブ観光局は 57 人の職員で構成されている。職員は観光局内で勤務するだけでなく、まちなかで観光客におすすめスポットの案内もしている。財源は地域のホテルが宿泊者から徴収した宿泊税であり、チューリッヒ観光局の財源確保と同様の方法であった。また、レマン湖を中心に据えて観光を企画し、レマン湖での観光クルーズやレマン湖の自然を楽しみながら、まちの歴史や文化に触れるガイド付きサイクリングツアーを展開している。ガイドは民間の会社が行うガイド養成講座を受講した地域の人が担っている。専属のツアーガイドもいるが、主な担い手はパートタイムで働く主婦やまちの歴史に詳しいリタイア世代である。

また、観光客に地域でお金をつかってもらうためには、観光スポットをまちなかに点在させることが重要だという。そうすることで、観光客がまちなかを巡回し、滞在時間が長くなり、お金を使う機会が増える。

さらに、ジュネーブ観光局職員やホテル、飲食店などの観光業に携わる人たち全体で、目指す方向性を明確に共有しているという。一丸となって事業を進めていくために、事業者同士をつなぐこともジュネーブ観光局の役割である。全体で共有している目指す方向性は、世界中の人にジュネーブの魅力を知ってもらい、観光を通して地域の人によりよい暮らしにつなげていくことだと話した。視察中の「地域に住んでいる人々がうれしいことが、観光客にとってもうれしいことにつながっている」という言葉が印象的であった。

ガイド付きサイクリングツアーは、レマン湖を中心にルートが設定されている。サイクリングツアーで巡った観光スポットをいくつか紹介する。

①レマン湖

絶景が見渡せる写真撮影ポイントを楽しむことができる。レマン湖で楽しめるアクティビティの紹介もある。

②大噴水

ジュネーブのシンボルである大噴水を間近に見ることができる。

③バステイオン公園

ジュネーブ大学とアンリ・デュナン記念館を見学することができる。

④サン ピエール大聖堂

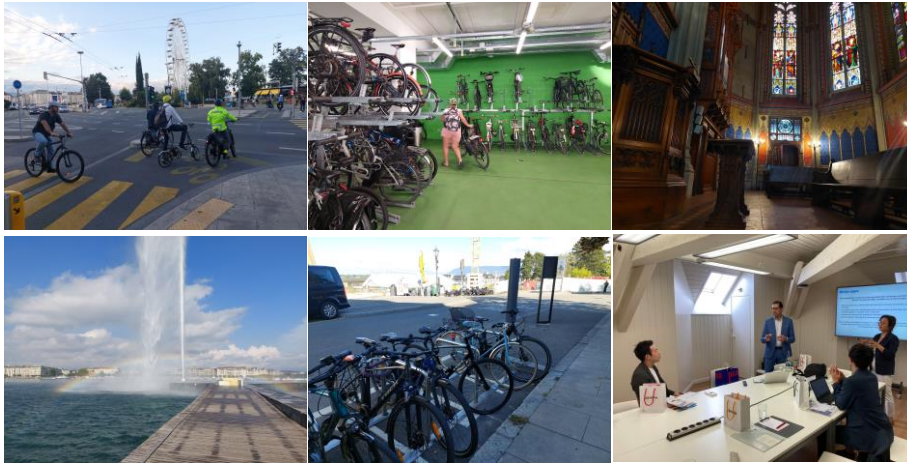
サン ピエール大聖堂の内部を探索し、大聖堂の歴史について知ることができる。

このガイド付きサイクリングツアーに参加することで、ジュネーブの歴史や文化を知ることができ、まちなかの石碑がとても価値のあるものに感じられた。ガイドが同行し、実物を見ながら解説を聞くことは、貴重な経験であると改めて痛感した。また、サイクリングガイドが、解説するポイントごとに写真撮影をしてくれたことで、より記憶に残るサイクリングツアーとなった。

まちには、いたるところにバイクラックや駐輪スペースが設けられていた。路面上には、自転車専用レーンが設けられていて、進路も分かりやすく矢印が示されていた。サイクリングガイドによると、地元事業者が空気入れの貸し出しも行っているという。まち全体で快適にサイクリングを楽しめる環境整備が行われ、サイクリングを楽しむ観光客を歓迎する体制が整っていた。

さらに、電動自転車が準備されていたため、無理なくまちなかを巡ることができた。まちなかには、レンタルサイクルがいたるところにあり、電動自転車の貸し出しが多かった。貸し出し施設は無人で、スマートフォンのアプリでの予約や電子決済が可能で、職員を常時配備しなくてもよい仕組みが整えられていた。サイクリングガイドは、電動自転車が主流になっている理由について「私は足腰が悪いが、電動自転車があるので、こうしてサイクリングガイドを務めることができている。足腰に自信がない人でも安心して参加することができ、坂道のある目的地でもスムーズに到着することができるからだ」と話した。チューリッヒの事例と同様で、電動自転車のレンタルが主流となっていた。

サイクリングツアーでまちなかをめぐっていると、ジュネーブの歴史を紹介するガイドスポットに、たくさんの学生がいた。サイクリングガイドによると、学校の社会の授業で、ジュネーブの歴史を学ぶためフィールドワークを行っているという。複数のガイドスポットで、教員が学生たちに実物を見せながら説明している様子を見たが、学生は興味深くまちの歴史について学んでいた。フィールドワークを通して、学生たちが自分のまちについて詳しく知ることは、ジュネーブへの誇りや愛着にもつながっているように感じた。



サイクリングツアーの様子 / ジュネーブ観光局視察の様子

5 まとめ

今回の調査を踏まえ、加須市で実践できそうな施策を2点提案したい。

(1) 「サイクリングのまち加須市」を定着させる体制づくり

「サイクリングのまち加須市」を定着させるためには、地域の人と地元事業者の協力が必須である。スイスでは、サイクリングやまちの歴史、文化が地域の人々に根付いている。多くの人がサイクリングを楽しみ、歴史的な名所には、観光客だけでなく地域の人が多く集まり、地域の人たちにとっても観光客にとっても人気のあるコンテンツや名所になっていた。視察を通して、地域の人に根付き、そこに愛着が生まれているものは、観光客にも受け入れられ人気のあるコンテンツになっていると感じた。

①地域の人の協力

今回の調査で、実際にガイド付きサイクリングツアーに参加した。まちの歴史や文化に詳しい人から説明を聞いていると、徐々にまちへの愛着が生まれ、サイクリングをしながら眺めるまちの景色や日常風景に愛おしさを感じ、存分にサイクリングを楽しむことができた。

加須市においても、地域の人にまちの歴史や文化とサイクリングの楽しさを改めて実感してもらい、まちへの愛着を醸成しながら、サイクリングを日々の生活に根付かせていきたい。そのためには、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にした地域の人向けのガイド付きサイクリングツアーを開催することが有効であると考えます。年に一度開催するような大きなイベントではなく、地域の人を対象とした小さなイベントを積み重ねていくことが重要である。最終的には、地域の人々が自ら関わり「サイクリングのまち加須市」として、まちをPRしたいという意識をもってもらうことが理想である。

また、サイクリングツアーのガイドは、地域にゆかりのあるサイクリストに担ってもらいたい。また、並行して地域の人にもサイクリングツアーのガイドとして活躍してほしいと考

える。サイクリングツアーガイドとして加須市の魅力を参加者に伝えるためには、そのガイドが加須市の歴史や文化に愛着をもち、いかに日常生活に根付いているかがポイントになる。ジュネーブでサイクリングツアーに参加した際、スイスの学生が社会の授業で実物を見ながらまちの歴史を学んでいた。加須市でも小学生・中学生の頃から、まちの歴史や文化に触れる経験を多く積むことで、そのような人材を育成することができると考える。現状では、加須市内で、実際に歴史的な場所でフィールドワークを行う学生に遭遇したことはない。実物を見ながら勉強し、地域の歴史や文化に愛着をもつことは、将来のサイクリングツアーガイドを育成することにもつながるだろう。

②事業者の協力

サイクリストのおおや氏の話にもあったが、自転車の空気入れを店に置いてもらうことやバイクラックの設置、十分な駐輪スペースの確保を地元事業者に依頼したい。実際にサイクリングツアーに参加し、ジュネーブのまちを走った際、観光スポットには必ず駐輪スペースが設けられていた。また、地元事業者が空気入れなどの自転車用具を貸し出してくれるため、安心してサイクリングを楽しむことができた。

地元事業者に協力を依頼する際は、お互いにメリットのある関係性を保つことが重要である。そのため、加須市のサイクリングマップに店を掲載することやサイクリングツアーの目的地に組み込むなど、店に客が増える仕組みを整える必要がある。

③道路の路面表記とレンタルサイクルのサービス拡充

レンタルサイクルに電動自転車を用意することは、利用者の層が広がり、サイクリングツアーで案内するルートを選択肢も増えるため、費用はかかるがメリットの方が大きいと考える。

また、道路の路面上に進む方向を示す矢印などを表記することで、走りやすくサイクリストが集まるまちをつくることができる。

(2) 「ガイド付きサイクリングツアー」の開催

今回の調査を踏まえ、実際に加須市でガイド付きサイクリングツアーを開催することを想定し、サイクリングルートを提案する。

サイクリングルートを提案するにあたり、一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパンの網野優介氏・弘瀬智子氏に取材を行った。

同法人は、サイクリストが地域を走り、地域に触れて、地域で消費（体験・交流・観光）する「地走地消」構想を掲げ、地域側には経済波及効果を生み、サイクリスト側にはスポーツライドのみでは得られないその土地ならではの価値体験を提供している。両者にとっての幸せなマッチングを生み出し続けるプラットフォームになることを目指し活動している。また、平成25年から全国各地の地方公共団体等と連携し、自転車を活用した誘客・地域活性化を目的とするサイクルツーリズムプロジェクト「ツール・ド・ニッポン」を主催している。これまでに全国33都道府県100地域以上において、1DAYイベントや期間型イベント開催、サイクリングツアーガイド養成、ガイド付サイクリングツアー開催、サイ

クリングルート設定などの取組を行っている。ガイド養成事業は、初心者でも受講可能で、交通ルールや自転車の乗り方などの基本的なことから、サイクリングツアーで巡る観光スポットの選定方法など実践的なことまで習得することができる。また、令和5年9月から始動した音声ガイドサイクリングのプロジェクトも魅力的であった。地元のサイクリングガイドが設計したコースを地元ガイドの音声解説を美術館の音声解説のように聞きながら、地域を巡ることができるアクティビティである。指定の場所に行くとその場所にまつわる音声ガイドが流れ、一連の場所をすべて巡ると一つの物語が完成する仕組みになっている。音声ガイドはスマートフォンのアプリで聞くことができるため、手軽に始めることができ、サイクリングガイドが不在の場合でもサイクリングツアーを楽しむことができる。

サイクリングルートを設定する際の注意点や工夫について網野優介氏・弘瀬智子氏は「サイクリングツアーに参加するターゲットを明確にし、ターゲットに合わせて、観光スポットや走行距離を決めていかなければならない。ターゲットにとって魅力的なものは何であるかを考えながら、観光スポットをつなぎ合わせていくことが重要である。また、その過程に加えて、観光スポットにサイクルラックや駐輪場が整備してあるか、定期的にトイレに立ち寄れるかななどを考慮して設定することが併せて重要である」と話した。



サイクリスト 地域 「地走地消」構想

今回の取材と調査全体を踏まえ、サイクリングルートを設定する。

ターゲットは加須市の魅力や歴史を詳しく知らない若い世代とし、ツアーのテーマを「加須市の魅力と秋を感じる1日」とする。

行程①

加須駅に集合し、加須市商工会館でレンタルサイクルを申し込む。



行程②

関東三大不動の一つである不動ヶ岡不動尊總願寺で加須市の歴史を学び、一日の楽しさと安全を祈願する。境内のイチョウも見事である。出発前に、總願寺の向かいにある武蔵屋本店で加須市の名物である五家宝（きなこ、もち米、砂糖、水あめでつくる和菓子）を紹介する。



行程③

加須はなさき水上公園の豊かな自然でリフレッシュする。加須はなさき水上公園のイチョウ並木は約 200mにわたり、83 本植えられている。秋の黄葉時は特に観光客でにぎわっている。



行程④

めんこや岡安で加須名物のうどんランチを楽しむ。食後は直売所でお土産の紹介をする。



行程⑤

玉敷神社・玉敷公園で推定樹齢 500 年の大イチョウを楽しみ、玉敷神社で江戸時代から続く玉敷神社神楽の歴史を学ぶ。



行程⑥

加須駅に戻り、加須市商工会館でレンタルサイクルを返却し、ツアー終了。

このサイクリングツアーのルートは、加須市の歴史や名所を巡り、地元事業者と連携しながら、加須市の名物紹介もすることができる。所要時間は約7時間で、1日を通して加須市を満喫するサイクリングツアーである。走行ルートは、加須駅周辺で、円を描くように設定している。また、今回のルートには組み込まなかったが、加須駅の北側にパサルキッチンというカフェ(1)がある。この店はサイクリストのおおや氏の働きかけでバイクラックを設置したオサルナの系列店であり、この店にもバイクラックが設置されている。お互いにメリットのある関係性を構築することで、このような地元事業者を増やしていった

い。また、加須市の豊かな自然と美しい景色をテーマにサイクリングツアーを計画する場合、渡良瀬遊水地(2)を舞台に写真好きをターゲットにしたガイド付きサイクリングツアーもよいと考える。



「加須市の魅力と秋を感じる1日」サイクリングルートマップ
(マップ上の番号順に観光スポットをまわる。)



(1) パサルキッチンのバイクラック



(2) 渡良瀬遊水地 サイクリングコース



6 おわりに

今回の調査では、チューリッヒとジュネーブの視察を主とし、サイクリストやサイクリングに関連する団体への取材も行った。

調査を進める中で、チューリッヒやジュネーブの他にもサイクリングを活用した地域活性化に取り組む地域を知った。

国内外問わず、より多くの事例を知るため、一般社団法人日本エコツーリズム協会の高野千鶴氏に取材を行った。

同協会は、近年、観光における持続可能性の実現が大前提となる中、それだけでなく、その先にある地域社会の持続可能な発展を目指し、その具体的な方法としてエコツーリズムを推進している団体である。人材育成をテーマに、ツアーガイドの養成講習会なども開催している。

高野千鶴氏からは、国民一人あたりの自転車保有台数世界一を誇り、サイクリングが手軽で安全なものになるよう自転車用の信号や目的地までの距離を示した専用標識の設置などに取り組むオランダの事例を聞いた。また、イタリアピエモンテ州の地域色豊かな食事を楽しむことに特化したサイクリングツアーの事例なども聞いた。



一般社団法人日本エコツーリズム協会の様子

国内外を問わず、魅力あふれる取組を行う地域はたくさんある。海外調査を通じて、広い視野をもって研究する大切さを改めて実感した。今後も情報収集を怠らず、広い視野をもって、加須市のよりよいまちづくりに貢献していきたい。

最後に、海外調査研究の機会を提供してくださった派遣元の加須市と一般財団法人地域活性化センターに対して感謝するとともに、調査にご協力いただいたすべての皆さまに心から感謝を申し上げ、本報告書の結びとする。

【参考文献・資料】

- 加須市ホームページ：<https://kazoling.com/>
- 加須市 病院を核とした加須駅周辺の新たなまちづくり構想
～かぞ版スーパーシティの実現に向けて～（素案）
- チューリッヒ観光局ホームページ：<https://www.zuerich.com/en>
- ジュネーブ観光局ホームページ：<https://www.geneve.com/>
- ルーツ・スポーツ・ジャパンホームページ：<http://roots-sports.jp/>
- 日本エコツーリズム協会ホームページ：<https://ecotourism.gr.jp/>